【会情報】

【会員企業ご訪問：Vol 108】

株式会社玉川化学工業所（東大阪支部）

今回は大阪府東大阪市柏田西にある㈱玉川化学工業所の代表取締役　玉川　泰慶様を訪ねました。

本社住所	大阪府東大阪市柏田西 2-13-12
電話／FAX	06-6728-8522／06-6728-6146
資本金	1,000 万円
創業	昭和 43 年 10 月
設置成形機	横型射出成形機 8 台 縦型射出成形機 1 台
成形機メーカー	菱屋精工㈱ ㈱日本製鋼所 ㈱ソディック 住友重機械工業㈱
その他設置機器	ホットスタンプ 超音波ミシン 45 トンプレス機 カシメ機 タップマシン

玉川　泰慶　代表取締役

外　観

創業について

父親が一人で昭和 43 年 10 月に創業しました。当時としては最新鋭の 350 トン成形機で事業を開始し、創業時は三井化学㈱より受注したポリバケツの製造を、革新的なホットランナーを導入した金型で製造していました。当時の製造業は出稼ぎ等住み込みの従業員が多く、労働環境が厳しかったためにどうしても人の入れ替わりが激しい事が先代の一番の悩みでした。「信頼できる社員が欲しい」という切羽詰った要望を受け、大学卒業後、一年だけ金融機関に勤めた後、私は父親の会社に入社することを決意しました。

複数メーカーの成形機を導入している理由

複数メーカーの成形機を導入していることには幾つか理由があります。「若手社員に経験を積ませること」、「顧客の様々なニーズに応えることができること」、最後に「様々な可能性を試すことができること」です。最初の「若手社員に経験を積ませること」、これは後続への人材育成の期待を込めての理由です。二つ目の、「顧客の様々なニーズに応えること」につい

てですが、現在のプラスチックに関する技術は飛躍的に進歩しており、顧客からの要望も多様化してきています。その様々な要望をできる限り受け入れるためにも、異なる特色を持つ複数メーカーの成形機を導入しておいた方が多様な対応ができる為です。最後の、「様々な可能性を試すことができること」についてですが、中国の工場見学が契機となりプラスチックと金属をコラボレーションさせてみたいと考えるようになりました。様々な製造工程や商品を考案する中で、複数メーカーの成形機があった方が試作をスムーズに考案しやすいと感じています。

横型射出成型機

製品について

現在は工業、住宅、工具類等を主に手掛けています。例えば、自動車のシートベルトのバックルやフィルター等です。依頼品の製造がメインになっていますが、自社開発商品にも力を入れたいと思っています。自社開発商品は既に幾つかあり、例えば、ゴルフクラブや金槌のグリップ部分、パチンコ用のドル箱、消臭剤を組み込んで製造した冷蔵庫用の消臭マット、そして自転車のハンドル部分にセットするドリンクホルダー等です。今は、受注品だけで手一杯になってしまっており、なかなか新商品の開発に時間が割けないのが正直なところですが、今後は独自性のある自社商品の開発に力を入れていきたいと考えています。

製造品の一例
・自社開発のグリップ
・シートベルトのバックル
・フィルター

社員教育について

今の時代、商品に何らかの付加価値を付けることが求められていると感じています。ただ商品を作っているだけでは進歩は望めるべくもなく、アイデアも生まれないと思っています。その為、「日々が勉強」「緊張感を持った業務」を意識づける様にしています。これは、自身で「やらなければいけない」という意識を持つ事が基本だと思いますので、朝礼で必ず意識啓発の為の意見交換をするようにしています。また、社員の成長の為には私自身が学ぶ姿勢を持ち続ける事が肝要だと肝に銘じています。社長が理解できていないことを社員に理解させたり指示したりすることができるはずがありません。ですから何事に対しても貪欲に関心を持ち、勉強していく姿で社員教育ができるよう心掛けています。

今後の取り組みについて

急激に円安が進んでおり、この影響で苦しい経営を行っている企業が多いのが現状です。昔は放っておいても仕事が入ってくる時代もありましたが、競争が激しい今は自分で仕事を生み出していかなければ生き残れない時を迎えていると考えています。現在は技術の進化も大変早く、自動車や携帯電話の製造で使用する部品点数も減少しつつあります。つい最近にも、ある部品に特化していた企業が、技術の進歩によりその部品が不要となった際に対応しきれず、廃業したケースを目の当たりにしました。何かに特化することは決して悪いこととは言えませんが、当社は受注量にはあまりこだわらず、幅広く注文を受けていきたいと思っています。これは、「製造業の最終目的とは社会の役に立ち、人の喜ぶ物を作ること」だという自身のポリシーに基づいた考えでもあります。当社には様々なニーズに対応可能な複数メーカーの成形機があります。私は、この強みを十分に活かしていきたいと思っています。

西プラへの要望について

元々私はプラスチックに関する知識は皆無の状況で入社しました。しかし、西プラの支部会や勉強会、そして JP 会に参加することで諸先輩方達よりプラスチック業界の現状や形態、そして社会全体から見たプラスチック業界の位置等を学びました。その為、このような情報交換や学ぶための場を大切にして欲しいと思っています。そして、持続性のある人材教育を是非お願いしたいと思います。人材不足は当社に限らず、多くの企業で深刻な問題となっています。特に、人材の定着、技術の確保などは業界の底上げには欠かせない要因であり、人材教育を最優先の課題とした取り組み、運営を要望したいです。

※　会社を訪問して　※

今回、玉川代表取締役のお話をお聞きして、改めて西プラ事務局が果たすべき役割を学ばせて頂いたと感じました。支部会や JP 会等の交流会は、ただ交流する場を提供するだけではなく、情報交換や出席者の知識を深めるための場だということを再認識させて頂き、その上で事務局からの情報発信が持つ重要性を感じました。支部会や勉強会を開催する際に、西プラ事務局が果たす役割とは何かを常に考慮した上で開催に臨みたいと感じました。

◎ありがとうございました

取材：事務局　平田・山下

※本記事記載の情報については、2014 年 11 月 13 日現在のものとなります。

掲載希望の方は
事務局（06-6214-8300）までご連絡ください。